

科目名	道徳教育論	科目責任者	井手 華奈子
課題と試験担当教員			
履修方法	T テキスト学習		
ナンバリング	CTETC255		

## ■ 科目概要

本書は、まず第1章で道徳の意味や道徳教育の重要性等、道徳教育の基礎的な問題に取り組むことから始められています。続いて第2章では、子どもの発達段階と道徳性の形成との関係について、第3章では、明治期以降の学校における道徳教育の変遷について、第4章では、今日の学校教育における道徳教育の位置と構造について、第5章では、道徳授業の展開と具体的な指導のありかたについて、第6章では、道徳教育における教員の役割と責任について、それぞれ述べられています。以上をふまえた上で、終章では、現代社会における道徳教育の意義と課題を論じています。

私たちが社会生活を営む上で、道徳が欠くことのできないものであることを知り、中学校が道徳教育を行う場所としていかに重要な役割を担っているのかを理解していただきたいと思います。

## ■ 到達目標

- 人間としてよく生きることと道徳性との関係について理解することができる。
- なぜ道徳教育は大切なのかを理解することができる。
- 発達段階と道徳性との関係について理解することができる。
- 発達段階に応じた道徳性の形成とその条件を理解することができる。
- 発達の過程からみて中学生にはどのような指導が求められるかを検討することができる。
- 「道徳」特設の背景と意味について理解することができる。
- 道徳の時間の目標と学校全体で行われる道徳教育との関連について理解することができる。
- 道徳の時間の展開と評価について理解し、実際に指導案を作成したり教材研究等を行うことができる。
- 人格的同一化のメカニズムからみて、道徳教育上、大人が負う責任がいかに大きいかを理解することができる。
- 道徳教育における教員の位置と責任について理解することができる。
- 今日における道徳教育の課題にはどのようなものがあるか理解することができる。

## ■ 科目の計画・内容

学習範囲 該当する章など	学習内容
第1章 第1節	私たちが人間として社会の中で生きていくためには、自己の欲望や衝動を制御しながら他者と共同関係を結んでいかなければなりません。そのために道徳は必要不可欠です。 その道徳という言葉の意味や道徳的価値とはどのようなものであるか、古代の聖賢や近代以降の思想家たちの言説を参考に考えてみましょう。
第1章 第2節・第3節	なぜ私たち人間とその社会にとって道徳教育が必要であるのか。道徳教育の意義と重要性について理解してください。 また、道徳教育の場として学校が果たすべき役割や道徳教育のすすめかたについての基本的・原則的な事柄を確認しましょう。
第2章 第1節	道徳性とは何かを理解してください。そして、それは人間の発達や社会的な条件とどのように関係するのか、ハヴィガースト、ピアジェ、コールバーグ、デュルケムの説を参考にしてください。

学習範囲 該当する章など	学習内容
第2章 第2節	それぞれの発達段階に対応した道徳性の形成において配慮すべき点に注目してください。 とりわけ、思春期を迎える中学生には、どのような指導が望ましいかを考察してください。
第3章 第1節	近代以降の学校における道徳教育の変遷をたどり、日本における道徳教育の特徴について考えてみてください。 とりわけ第二次大戦終結まで、日本の教育の拠り所となっていた教育勅語の内容や特徴についても理解してください。
第3章 第2節	終戦まもない時期、学校における道徳教育はどのように扱われていたか。その後、1958年（昭和33年）に道徳の時間が特設されましたが、その背景にはどのような社会的状況があり、要請があったのでしょうか。 また、文部科学省は、現行指導要領を一部改訂し、平成31年から中学校において「道徳」を「道徳科」として全面实施することとなりました。教科としての道徳教育についても理解できるようにしてください。
第4章 第1節	学校における道徳教育は、道徳の時間を中核として、学校の教育活動全体を通じて行うものです。そして道徳教育の目標を実現させるために、学校には道徳教育の全体計画が作成されなければなりません。 それによって、学校の道徳教育が中心となり、道徳性育成の機能が、家庭、地域社会に有効に同心円的に広がっていくことが期待されています。
第4章 第2節	教科指導にあたっては、道徳教育的意味を考慮に入れた指導をしなければなりません。 実際に、学校における道徳教育と各教科の指導をどのように関連づけられればよいのでしょうか。
第4章 第3節	学校における道徳教育は、各教科の授業の他に、特別活動や総合的な学習の時間等の指導においても十分に意識され、実践されなければなりません。 道徳教育と特別活動との関連づけについて考えてみてください。
第5章 第1節・ 第2節・第3節	道徳の時間は、学校の教育活動全体で行われる道徳教育の「かなめ」として、道徳的価値について学び、自覚を深め、道徳的実践力を育成することをねらいとしています。 道徳教育の実践においては、学校の道徳教育の全体計画、学年ごとの道徳の時間の年間指導計画、クラスで行われる道徳の時間の指導案の三種類の指導計画の作成が必要です。 テキストの具体例を参考に実際の年間指導計画や学習指導案をつくってみましょう。
第5章 第4節・第5節	道徳の時間においては、「評定」ではなく児童生徒の道徳性がどのように変容したかを把握するための「評価」を行います。道徳性の形成には、長期的・継続的な指導が必要であり、評価の対象場面もあらゆる活動に及んでいることを考慮に入れなければなりません。 道徳の授業は、ボランティア活動や自然体験を教材としたり、生活実践と結びつけて展開することでより効果的な指導ができると期待されています。
第6章 第1節	道徳教育において、人格的同一化のメカニズムはとても重要です。同一化の対象となるすべての大人は、基本的に子どもに対して道徳教育上の責任を持っています。 子どもにとって分かりやすい道徳的実践のお手本を、私たち大人がどれだけ示してやれるかが、道徳教育の正否を握る鍵です。
第6章 第2節	道徳教育上の責任を持っているとはいえ、すべての大人が道徳的模範になることを求めるのは、現実的ではありません。教育目的の達成を目指して望ましい条件が整うようにつくられた学校は、道徳教育の源泉となる可能性をもっています。そして教員は、大人の代表として理想的な同一化の対象として振る舞うことを社会から期待されています。 道徳教育において、教員が置かれた位置とそれにもとむ役割、そして教員が負わなければいけない責任について理解してください。
終章	現代社会の様々な問題は、究極において道徳のありかたと深く関係しています。社会的問題の増加に伴い、道徳教育もますます重要性を増します。 今日、そしてこれからの道徳教育がその解決のために立ち向かわなければならない課題にはどのようなものがあるのでしょうか。さらに、テキストに示された道徳教育を行う上で配慮すべきポイントについても考察してみましょう。

## ■ 学習方法・評価

種別	評価基準
試験	テキストの内容をどれだけ正しく十分に理解しているかを評価します。
レポート	課題把握が正しいか、文章に論理的整合性があるか注意してください。 参考文献・資料を用意し、考察を深めてください。参考文献・資料を探すのも学習の大事な点です。使ったものは必ずレポートの文末に明記してください。

## ■ 評価方法

---

- 科目試験：70%
- レポート：30%

## ■ 教科書

---

**書名：**道徳教育  
**著者名：**創大道徳教育研  
**出版社名：**創大通信教育部  
**出版年：**平18.4  
**版：**全訂版  
**刷：**  
**ISBN：**

## ■ 参考書

---

- ・著者名：文部科学省
  - ・書名：中学校学習指導要領解説「道徳編」
  - ・出版社：日本文教出版
  - ・出版年および版：平成20年10月
- ・「道徳に係る小学校、中学校、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部を改正する告示及び移行措置に係る告示」文部科学省HP、平成27年3月

## ■ 履修上のアドバイス

---

テキスト本文の内容を学習する前後どちらでもよいので、巻末の学習指導書を参考にしてください。各章でとりわけ重要とされるポイントや用語等が示されています。

なお、学習指導書にある「課題とアドバイス」は、大事ですからよく学んでおいてください。

## ■ 自習時間

---

教科書・参考文献を使い、落ち着いて納得のいくレポートを作成してください。レポートを書く準備から清書まで、時間はたっぷりとりましょう。テキストの内容を理解するためには、最低2～3時間はかかると思います。レポート作成には5時間程度が必要かと思います。

また科目試験に臨む際には、テキストの出題範囲の内容が暗記できるぐらいまで、時間をかけて学習してください。

## ■ 担当者のプロフィール

---

.